

インクル

第9号

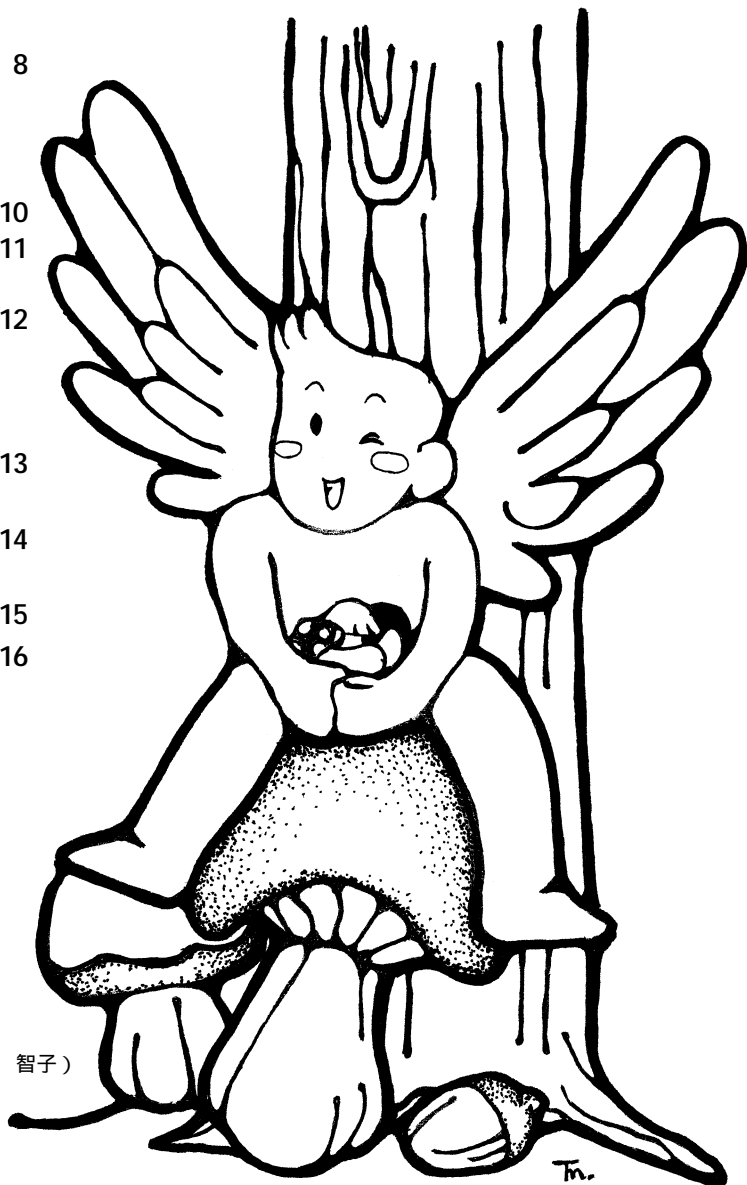
財団法人 共用品推進機構

〒101-0064
東京都千代田区猿樂町
2-5-4 OGAビル 8階

“Incl.” by The Kyoyo-Hin Foundation

目次 / Contents

- ・米国バリアフリー報告 共用品を支えるサービスとハート
第4回 NPOが担う共用品リサイクル(草地美穂子)..... 2
- ・特集: 共用品の新しいJIS
包装・容器、凸記号、操作性、ユーザビリティ..... 4
「人間中心設計プロセス」を規定、「ISO13407」国内でも普及に弾み!? 7
- ・“ニューフェース”続々、100点近い共用品を展示
第27回国際福祉機器展、共用品推進機構ブース(橋本英和)..... 8
- ・ニュース&トピックス
[東京会議]
全銀協に「ATMの共用品化」を要請！
永井武志・カードシステム班長に聞く..... 10
液晶タッチパネル用のガイドボード、サン工芸が試作開発..... 11
- [共用品推進機構]
『共用品白書2000』を刊行..... 12
- [事務局長だより]
店と障害者が作る「町の日常」、
新所沢東口商店街を再訪して(星川安之)
(財)共用品推進機構 会員状況..... 13
- ・キーワードで考える共用品講座
第9講 交通のバリアフリー(後藤芳一)..... 14
- ・点描・インクルの微笑み
文具売り場で見つけた「手作り点字カード」(森川美和)..... 15
- ・『インクル』からのお願い/奥付..... 16



(イラスト: 牧内 智子)



共用品を支えるサービスとハート

NPOが担う共用品リサイクル

第4回

くさち みほこ 草地 美穂子 (在サンフランシスコ、カリフォルニア州立大学在学中)

ある人には不要になった物でも、他の人に役立つことはよくある。新製品の開発・普及も大事だが、既存商品の有効な再利用法・ルートを考えるのも、パリアフリー思想の重要なポイントだろう。今回は、非営利慈善団体の中古品流通部門を訪ね、入手経路・価格など共用品の理想的なアクセシビリティ（入手しやすさ）を考えてみた。

かつてない経済的な繁栄を謳歌しているアメリカ。だが、その陰では、日々のパンやベッドにもこと欠く人々が急増している。特にここ数年は、高騰する住宅・光熱費、削減された医療福祉予算のため、極貧層への転落を余儀なくされた元中流階級も多い。当地にはこうした人々の福利厚生を改善し、自立・社会復帰を促すための民間非営利組織（NPO）が無数にある。多くは慈善・人権擁護団体だが、そのサービスの質・専門性の高さは往々にして政府政策の先を行く。

必要な物を、必要な人へ 衣食住を支える豊富なサービス内容

先日、その代表格、セントアンソニー財団を訪ね

る機会があった。筆者がよく家庭訪問をする日系人のエイミーさん（前々回登場）は、台所仕事用の座高の高い背もたれつきのいすを探していた。骨粗鬆症による腰痛のため長時間の立ち仕事はつらいのだ。上司のソーシャルワーカーに相談すると、「セ財団の家具・衣料品部門に適当なものがあるかもしれない」とさっそく連絡をとってくれた。

セ財団には緊急避難所、無料食提供、無料診療所、高齢者・障害者用住宅、就職前訓練プログラムなど12のサービス部門がある。家具・衣料品部門では、いわゆる「食住」を確保した人々がさらに安定した生活を営めるよう、衣料・生活用品を無償で提供している。住む家はあるが家具がなく、収入がほとんどない人（月額約700ドル以下）ならば、誰でもサービスを受けられる。口コミで本人が申請してくる場合もあるが、エイミーさんのようにソーシャルワーカーの紹介・斡旋で利用する人も多い。

問題のいすは「今は適当な物がないが、来週火曜日に大きな仕入れがあるのでまた連絡してほしい」とのこと。家具や日用品は、セ財団所有のトラック・ワゴン車10数台が毎日市内中を走り回って寄贈者から集めてくるのだが、火曜日は特にホテルや不



セ財団の家具・衣料品部門のマイケルさん(右)とラリーさん。日用品の陳列棚の前で。(撮影：草地美穂子)



セ財団の衣料品コーナーで好みのシャツを探している男性。(撮影：草地美穂子)

動産など宿泊施設・住宅リース関連の企業から、役目を終えた物品が集中的に運ばれてくる。その中には、ホテルの客室にあるようなしっかりしたシート張りのいすがよくあるという。

さて、火曜日にまた連絡をすると、それらしきいすが入ったとのこと。早い者勝ちというのですぐに行くと、大きさは問題ないが、肝心の座高が10センチほど足りない。すると、「じゃ、これも使ってみたら」といって、担当のラリーさんが大きなクッションを探してきて上に置いてくれた。なるほど、これでなんとか必要な高さに間に合いそうだ。代理人受け取りのサインをし、いすとクッションを車に積み込んでエイミーさんの家に向かう。幸い、高さ、座り心地はエイミーさんにぴったりで、「これで好きな料理がいつでも楽しめる」と満足気だった。

この日はたまたまこちらから車を出したが、運搬のアクセスがない人には財団側が希望日に運んでくれる。また、財団まで自分で行ける人は在庫品の中から好みの物を選択できる。

**「自立のための無利子償還品」
企業・個人が寄贈、ボランティアが活動支援**

家具・衣料品部門はもともとセ財団の古着・中古品ショップとして1962年に始まり、販売対象も女性と子どものいる家族に限っていた。が、この仕組みでは貧困層全体に必要な物資が平等に行き渡らない（無収入者・独身男性などが除外されてしまう）ということで、90年からは基準所得以下の人には平等



10月8日に開催されたセントアンソニー財団創立50周年を祝うイベントの様様。野外バーベキューでは、用意した6000食がすぐなくなった。(写真撮影・提供：アン・ハッチングスさん)



米国バリアフリー・リサイクル事情

アメリカ人は古い物を修理したり、改造して使うのが上手。リサイクルショップやスーパーなどの「売ります・買います」コーナーは掘り出し物を見つけるいい方法だ。写真は、サンフランシスコ市内のある「スリフトショップ」の店内風景。慈善のための古着専門店で、利益はすべて障害者の自立援助プログラムに当てられる。

(撮影：草地美穂子)

にサービス提供することになった。

近年の好景気に支えられ寄贈品の入荷は好調、現在月間約2000件（家族・個人）の利用がある。セ財団全体の年間予算は1300万ドル（=約14億円）で、7割近くを遺贈金・贈与動産と個人・法人からの寄付でまかなう。政府からの援助は一切得ていない。職員は150人いるが、彼らを支えるボランティアは小学生から退職者まで2000人（年間）。この強力な民間サポートの背景には、「慈善」に対する日米の根本的な価値観の違いがある。

こちらのチャリティーはあくまでも、受ける側の「自立」を助ける手段でしかない。そのための生活必需品の無償提供であり、他の関連サービスなのだ。「もらって当たり前」と甘える人を増やさないため、家具も過去の受給者には再び配給しない。寄贈品というよりは、「自立のための無利子償還品として考えてほしい。このことがよくわかっている人は自立した後に借りた物を返しに来てくれます」と、家具部門のマイケル・フィアラさん。こうして返ってきた物はまた再び必要な人の手に渡っていく。持てる者から持たざる者へ、人々の「善意をつなぐ仕事」にうちこむ自称「現代版ロビンフード」だそうだ。

特集 共用品の新しいJIS

包装・容器、凸記号、操作性、ユーザビリティ

共用品に関連する新しい日本工業規格(JIS)「高齢者・障害者配慮設計指針」が今秋、続々と誕生している。「包装・容器」の識別性、使用性の向上への配慮事項を示した規格が10月20日付で、各種電気スイッチなどの「消費生活製品の凸記号表示」ならびに「操作性」についての規格が11月20日付で、それぞれ官報に公示される。共用品のJISとしては、1996年に形状の異なる「切り欠き」を用いたプリペイドカードの触覚による識別方法を定めて以来の規格化となる。

また、ユーザビリティ(使い勝手)を重視する「人間中心設計(Human-centered design)」のあり方を定め、IT(情報技術)におけるモノ作りの指針として注目を集める「ISO13407」も、11月20日付でJISに採り入れられる。これら新JISのポイントを、通産省工業技術院と専門家に取材した。(高嶋 健夫^{たかしま たけお})

<包装・容器>

わかりやすい表示、開けやすさ、使いやすさを規定

まず、10月に公示された「包装・容器」に関する設計指針は、握力の低下や視力の衰えが見られる高齢者、視覚障害者を含むすべての人に対して、袋を含む包装や容器の識別性、使用性を向上させることを目的とする配慮設計を示している。

具体的には、包装・容器の表示に関する配慮、開けやすくするための配慮、握力の低下した使用者でも使いやすい容器の形状 について規定。

このうちの包装・容器の表示についてはさらに、「開け口・開封部の場所を識別しやすくする配慮」、「内容物の識別をしやすくする配慮」、「同一または

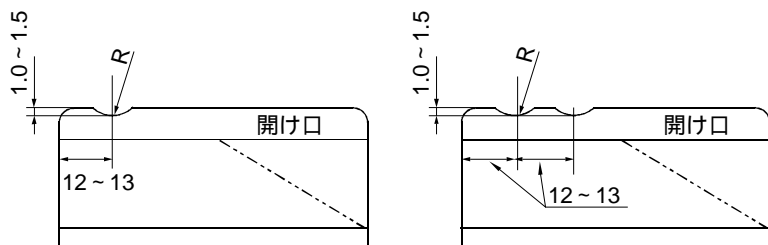
類似形状の包装・容器の内容物識別のための配慮」の3つの点から具体例を示している。

特に、「同一または類似形状の包装・容器の識別」については、牛乳パック、点字入りの缶ビール、ふたの形状で中身が識別できる調味料入れ、シャンプーのギザギザの4つの識別方法を図示している。

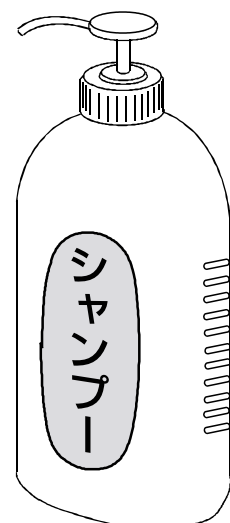
開けやすくする配慮の例としては、手でも切れるようにコーナーの切り口を工夫したフィルム容器、引きはがし用の「舌部」を大きく取ったゼリー・プリン容器、プルタブの缶詰めを図示。握力の弱った人でも使いやすい容器については、指が引っかかりやすいように凹凸を付けた容器の例が示されている。

通産省工業技術院ではこの新JISを踏まえ、引き

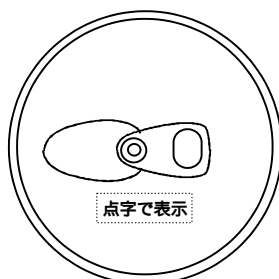
■紙パック容器の切り欠きの例(左が牛乳パック)



■シャンプー容器のギザギザの例



■缶入り種類の点字表示の例



続き、開封性の試験方法を策定する方針だ。「温度条件など機械でチェックできる方法を定めると共に、客観的な数字で評価できるモニター調査の方法も整備して、できれば平成13年度中に公示したい」
わたなべたけお
 (渡邊武夫・標準部標準業務課環境生活標準化推進室消費生活班長)としている。

<凸記号表示>

「小さな凸」の定義、寸法、表示位置を規定

11月に公示される「凸記号表示」は、すでにさまざまなジャンルの共用品の各種スイッチ類に用いられている凸点について初めて規定した。

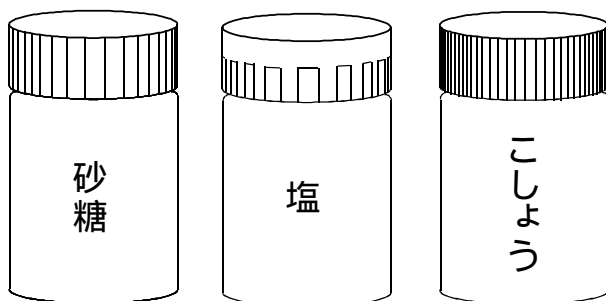
内容は、家電製品協会による家電製品向けの業界規格をベースにまとめられているが、適用範囲を家電製品だけでなく、電子機器、情報通信機器、OA機器、玩具、衛生設備機器、カメラなど「電気操作スイッチを持つ様々な消費生活製品」に広げている。そのうえで、視覚障害者や視力に衰えの見られる高齢者をはじめすべての人に、操作性を向上させるた

めに凸記号を表示する場合の指針を示している。

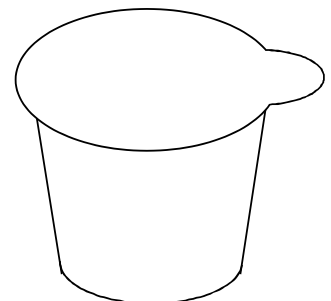
ここで言う「凸記号」とは、「操作の手がかりとして、操作部分の識別に用いる凸点、凸バー」で、さらに、凸点とは「凸状の丸い点」、凸バーとは「凸状の横バー」と定義している。

凸点、凸バーの寸法は6ページに図示したとおりで、これら凸記号を表示する場所については、それぞれ次のように規定している。まず、凸点については、製品の基本機能を開始させる操作部分(スタートボタンなど) 操作部分の識別や起点を示す必要がある操作部分(標準ボタンがある切り替えスイッチでは標準ボタンに凸点を付ける) 操作の方向性を示す必要のある操作部分(音量などを増やすボタンに凸点を付ける場合など)。一方、凸バーについては、「製品の基本機能を終了させる操作部分に特に必要とする場合に表示する」と規定。ただし、「入り切りスイッチ兼用のものには表示しない」とし、さらに「なお、凸バーの使用は必要最小限に止め、乱用しない」としている。

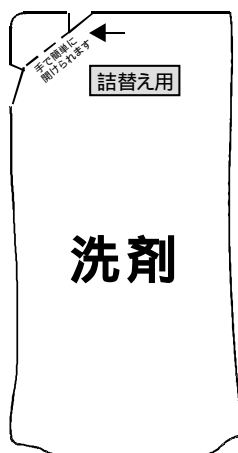
■容器ふたのデザインで中身が識別できる調味料入れの例



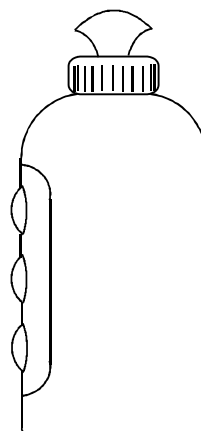
■ゼリー、プリン容器の例



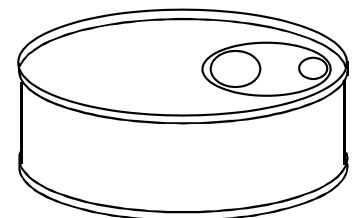
■手で開けられるフィルム容器の例



■滑りにくくした容器の例

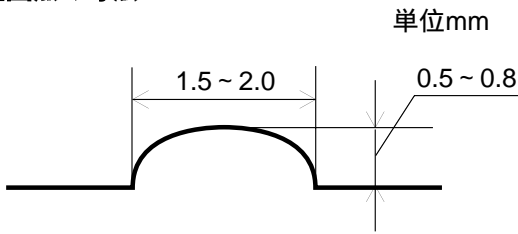


■プルタブ構造の缶詰の例



<出典>
 通産省工業技術院の資料による

■凸点の寸法



< 出典 > 通産省工業技術院の資料による

< 操作性 >

表示、用語、手順……11の留意事項を規定

この規格は、96年に公示されたJIS「家電製品の操作性に関する設計指針」の家電製品協会による改正案をベースに、適用範囲を「一般消費者が日常生活で使用する消費生活用製品」に拡大する形で規定したもの。それらの操作性を高めるために、「それらの製品を設計する際の指針として基本的に留意すべき事項について規定」している。

前述の凸記号表示のJISは「引用規格」として、この規格の一部を構成するものと規定されている。

そのうえで、具体的には、次の11項目について詳しく言及している。

表示のわかりやすさ：

表示文字、図記号、絵文字は認知しやすい大きさ、配置、コントラストなどに配慮。また、聴覚による認知のために音・音声による表示も考慮する。

用語・図記号のわかりやすさ：

操作部の機能・働きを示す用語は、できる限り平易で一般的なものに。英字の組み合わせによる略語（イニシャル化した略語）は原則として用いない。

操作部の位置：

使用者の身体、動作範囲を考慮して、無理なく操作できるように。

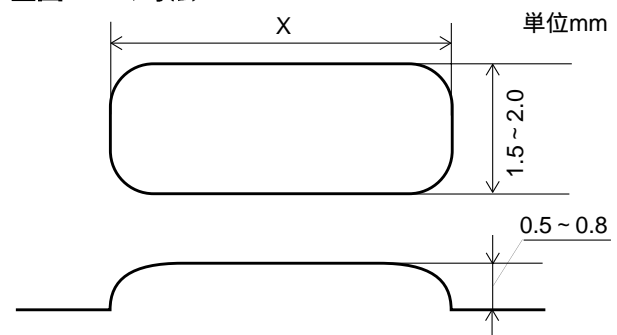
操作要素の配置：

使用者の混乱や使用意欲の減退を引き起こさないように操作の優先度を考慮して配置する。

操作要素の使いやすさ：

つまみの回転方向、スイッチの作動方向は、使用者の自然な認知や動作に適合するように。また、シートスイッチは凹凸を付けるなど、使用者が容易に

■凸バーの寸法



理解し、操作できるようにする。

手順のわかりやすさ：

開始と終了など基本機能の操作の明確化、タイマー予約、コース設定などの操作手順はわかりやすく、やり直しがきく配慮を。

適切なフィードバック：

「正常に受け付け」「エラー」など操作に対する結果や状況を確実に認識でき、スムーズに次の操作に入れるようにする。

報知音のわかりやすさ：

情報伝達的手段として用いる報知音や音声は、聞き取りやすく、目的や意味が理解・判別しやすいように考慮する。

触覚による使いやすさ：

凸記号表示による操作性の向上を図る。

誤操作の対処・防止：

ロック機構を設ける、報知音やランプなど複数の感覚に訴える注意・警告など、あらかじめ誤操作を予想した設計とする。

取り扱いのしやすさ(参考)：

設置および接続のしやすさ、収納の簡便さ、扉およびふたの開閉のしやすさ、持ち運びのしやすさ、手入れのしやすさ、製品の型番の表示にも配慮する。

通産省工技院では、この操作性のJISに関連して現在、「報知音」についても規格を策定中で、具体化すれば、凸記号表示のような「引用規格」となるものと見られる。

(なお、これらのJISの詳細については、来春にも発効が見込まれる共用品の国際規格である「ISO / IECガイド71案」とともに、共用品推進機構編による『共用品白書2000』に収録している。本号12ページを参照。)

「人間中心設計プロセス」を規定

「ISO13407」、国内でも普及に弾み!?

昨年6月に発効した「ISO13407」が、「インタラクティブシステムにおける人間中心設計プロセス」と題した新しい日本工業規格（JIS）として11月20日付で公示される。この規格は「IT時代における顧客本位のモノ作り」のあり方そのものを規定した規格として、情報技術（IT）分野をはじめとする幅広い製品分野で注目を集め始めている。

ISO13407が目的としているのは「ユーザビリティ」の向上。ユーザビリティとは一言で言えば「使い勝手」のことで、その製品・サービスの最終ユーザーが満足できる機能・操作性などを設計段階からチェックしていく仕組み作りを規定している。

対象となるのはパソコン・同ソフトウェアなど主にIT分野の製品・サービスだが、AV機器や白物家電などデジタル技術を利用する幅広い製品も含まれる。このため、わが国でもすでに事務機器工業会、家電製品協会などが業界が一体となった研究組織を立ち上げているほか、コンピューター、各種自販機などの電子関連メーカーが強い関心を示している。

最大の特徴は、出来上がった個々の製品・サービスのユーザビリティを単純に評価するのではなく、設計から製造、販売に至るすべてのプロセスを対象にしていること。各段階ごとに、エンドユーザーの意見や声、視点がきちんとプロセスの中に作り込まれているかどうかを、文書などのはっきりとわかる「形」にしてユーザー側に示すことを求めている。

ただ、この規格自体は極めて抽象的、理念的で、つか

み所のない規格に見える。日本における規格作りに参画している三菱総合研究所ビジネスソリューション事業本部の堀部保弘・主席研究員は「人間中心設計とは、顧客志向のモノ作りにほかならない。顧客の立場で作り込まれた使いやすい製品こそが価値があり、使いにくいものは無価値であることを確認し、ITの落とし穴ともいえる技術偏重、作る側の独りよがりを追放しよう」というものと解説する。

気になるのは、今後の運用方法。ISO9000、同14000シリーズのように認証規格になるのか関心が高いが、通産省工業技術院では「審査や認証については現段階では全く未定。欧州などの動向も見極めたい」としている。堀部氏によると、「2つの方向性が想定される」という。1つは製品単位、恐らくは型番単位での審査。もう1つは企業体質そのもののいわば成熟度を審査・格付け、あるいはコンサルティングするやり方。「欧州では、ドイツや北欧諸国は両方とも、英国は後者」（堀部氏）といい、情勢を見守る必要があるとそうだ。

三菱総研が企業向けセミナー
あおてまち
11月30日、東京・大手町で開催

このISO13407に関連して、三菱総合研究所は11月30日（木）午後1時から東京・大手町の同研究所で、「医療・介護分野における人間中心設計～使いやすさの向上、事故の防止をめざして」と題したセミナーを開く。対象は医療機器・介護機器メーカーなど企業・ビジネス

マンで、講師は堀部保弘氏ほか外部の専門家も予定している。

詳細については、以下に問い合わせを。

(株)三菱総合研究所
 安全科学研究本部安全政策研究部（担当者：江崎郁子、大橋毅夫）

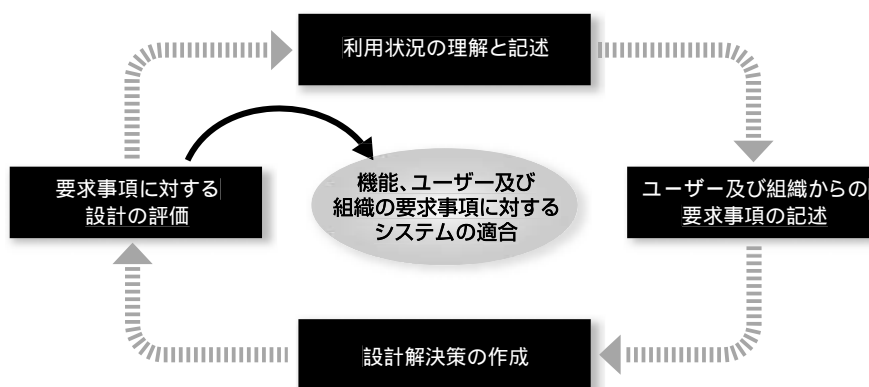
電話：03-3277-0774

FAX：03-3277-3480

Eメール：ezaki@mri.co.jp

または ohashi@mri.co.jp

■人間中心設計活動の相互関係（通産省工業技術院の資料より）



“ニューフェイス” 続々、 100点近い共用品を展示

第27回国際福祉機器展、共用品推進機構ブース

「ねえねえ、これ知ってる？」

「ギザギザがあると、シャンプーなんだって！」

「ふーん、共用品って言うんだね」

9月12～14日の3日間、東京・有明^{ありあけ}の東京ビッグサイトで開かれた第27回国際福祉機器展に共用品推進機構の出展したブースは、約100点もの共用品を直接触れることができる展示が好評で、連日大にぎわいを見せた。その模様を誌上に再現してみよう。
(橋本英和、高嶋健夫)

今回の出展ブースは、初めて参加した昨年の2倍。共用品の現物展示のほか、昨年発表した「共用品推進特別賞」の受賞団体の紹介、共用品・共用サービ

スの考え方や共用品推進機構の活動を説明したパネル、『共用品白書』や各種不便さ調査報告書など自主出版物の販売コーナーなど、限られたスペースを有効活用した「楽しく、役に立つブース」をめざした展示・演出を心がけた。

海外、地方メーカーが熱心に質問

パネルの内容を携帯電話の文字入力機能を使って熱心にメモする学生さん、自社開発した新製品の販路について質問をぶつけてくる地方の中小メーカーの経営者など、期間中はさまざまな人が訪れた。中には、「共用品」という文字を見て、「当社の製品も紛れもない共用品だ。是非とも日本市場に売り込みたいので、知恵を貸してほしい」と、英語と片言の日本語で相談してきた台湾の福祉機器メーカーの関係者もいた。



限られたスペースをフルに活用して共用品・共用サービスの「エッセンス」を効率的に紹介した共用品推進機構の展示ブース(撮影:高嶋健夫)

高齢者や障害者の不便さを説明するパネルと共用品の現物を一体で展示(左上)、「どうぞ手にとって...」と呼びかける表示看板は、今回の新しいアイデア(左中)。おなじみのドラえもんは、2年連続で呼び込みに大活躍(左下)。共遊玩具、シャンプー・リンス、プリベイドカードなど「共用品推進特別賞」受賞の製品群も展示された(右)。

展示した共用品について見ると、共用品推進機構としては今回初めて紹介した「ニューフェース」が目立ったのが特徴と言える。特に多かったのは文具、日用雑貨、玩具、食品、キッチンウエアなど身近な分野の商品で、共用品のすそ野の広がりを実感させた。

また、家電・AV製品では、電話・ファクス、各種リモコンなどで、大きな操作ボタンや見やすい文字表示、「5」の上に凸点の付いたテンキーの採用といった操作性の改善に意を注いだ製品が増えているとの印象を強くした。

各地を巡回、来年2月には韓国で展示！

共用品推進機構では各地の自治体などからの要請を受けて、今回の展示と基本的に同じ内容の展示品・パネルを貸し出す形で、全国各地で共用品・共用サービスに関する啓発・PRを展開している。

すでに、9月には岐阜県、東京・千代田区、10月には文京区、新宿区四谷、大分県などで実施。さらに、現在は大阪・南港のATCエイジレスセンターで「Let's! お出かけ 外出のサポートグッズから交通バリアフリー法まで」と題した企画展を同センターと共催中（～12月31日）

また、来年2月には千葉県幕張メッセ（「明日を拓く健康福祉フェア」＝2月7～9日）と韓国ソウル（「日韓フェスティバル」＝2月16～25日）でも共用品・共用サービスの展示を予定している。



今回初お目見えの共用品の1例。ビンやラベルに点字の付いた波乃音酒造の日本酒（左と高橋商店のボン酢（右から2つめ）。+側に赤字で「NEW」と表示され、5本パックから1本ずつ取り分けられる松下電池工業の乾電池（右）、薄いブルーの色が付くトンボ鉛筆のスティックのり。乾いた後は透明になる（中央手前）。中央後ろは、すっかりおなじみになった堂本食品の皮むき甘栗「そのまま ぱっくりりん」。



エストナの「アニマルトロニクス」は、動物の動きと鳴き声を再現する電動フィギア。左の象は、耳や鼻を動かしながら鳴き、右のライオンは首を回しながら口を開いてほえる。



上：良品計画のアルミミルクパンは、左右どちらが利き手でも使いやすいように、注ぎ口が両側に付いている優れモノ。

右：屋根部に丸い「切り欠き」が付いた日本生活共同組合連合会の紙パック容器入りの牛乳。農水省による今年度の「牛乳容器識別性向上モデル事業」で実現した。



全銀協に「ATMの共用品化」を要請!

ながいたけし
永井武志・カードシステム班長に聞く

共用品推進機構東京会議のカードシステム班はこのほど、全国銀行協会に対して「現金自動預け払い機(ATM)の共用品化」の早期実現を訴えた。ATMの機能がどんどん向上すると同時に、金融ビッグバンの進展によってコンビニエンスストアなどにATMを新設する動きが急展開する中で、「視覚障害者や高齢者でも使えるバリアフリーATM」の普及促進を同協会の顧客サービス検討部会の会合で直接働きかけた。そこで、同班班長の永井武志さんにポイントを聞いた。(聞き手は、高嶋健夫)



カードシステム班のメンバーと東京会議で議論する永井武志さん(東京・池袋の「エポック10」で、撮影:高嶋健夫)

全銀協に要請した理由は?

「ご案内のように、ATMは近年どんどん機能が向上し、利用者はとても便利になった。それと同時に規制緩和によるサービス競争の激化に伴い、コンビニ店はじめ設置箇所も急増していて、その面でも利用しやすくなってきている。しかし、その一方では、かえって利用しにくい、さらには利用できないという人も増えている。液晶画面のタッチパネルが使えない視覚障害のある人はもちろん、操作が複雑でわからないという高齢者など、困っている人はたくさんいる。今、対策を講じないとゆくゆく大変な事態になる。そんな危機感から行動を起こした」

ATMを共用品にする5つの提案

- 10キー付きのハンドセットを併設する
- 10キーの配列は電話と同じにし、5のキーには小さな凸点を付ける
- カードや紙幣の挿入口や操作画面の位置・レイアウトなど「操作性の統一」を図る
- カード挿入口は出し入れしやすい構造にする
- カードは手で触って区別できるように点字3字分の「セルフマークエリア」を設ける

「誰もが自分で操作」が、プライバシー保護の条件

具体的には、どんなことを要請したのか。

「別表に示したような5つの改善を提案した。いずれの点も、誰もが自分で操作できるような配慮と工夫を求めたものだ。お金の取り扱いというプライバシーに直接関わる行為は、誰かの助けを借りることなく自分でできるのが当たり前。ATMの操作も当然そうあるべきだし、そうなってほしいと思う」

もう少し詳しく説明してほしい。

「電話の受話器のようなハンドセットは一部の機種にはすでに導入されているが、テンキーと音声ガイドによって、盲人の方でも自分で操作できるようになる。テンキーの配列は現在はまだ、電話式、電卓式などいろいろな方式が併存している。これは困るので、使い慣れた電話式への統一を訴えた」

「操作性の統一については、各行、各機種によってレイアウトも操作の手順もバラバラなのが現状。例えば、カードや紙幣、コインの投入口は、位置も違えば、大きさも異なる。私たちが試作した投入口は滑るようにお金が中に入るようにデザインしてあるが、これも見てもらった」

「また、タッチパネルのデザインや操作方法も、各行で異なる。特に問題なのは、お金をおろす際の暗証番号入力手順。銀行や機種によって『確認』を押さないといけないのか、そうではないのか、さまざまなタイプがあって、お年寄りでなくても混乱してしまう。こうした使い勝手をできるだけ統一してほしい。この中で新しい視点は、情報量が飛躍的に増加するICカードの普及をにらんで、1枚1枚のカードにそれぞれの所有者が使いやすいように機能を切り替えるソフトをあらかじめ記憶する方式を提唱したこと。例えば、老眼の人ならタッチパネルの文字を拡大する、外国の人なら母国語の画面表示に切り替えるといった機能を付け、ICカードをATMに挿入するだけで実現できるよう要請した」

「セルフマークエリア」の実現、ISOにも提案

ICカードそのものについてはどうか。

「これからICカードの時代を迎えるわけだが、いろいろと新しい問題も起きそう。1例が、接触式ICカードの挿入方向がわからなくなるという問題だ。クレジットカードやキャッシュカードなど現在のプラスチックカードなら、エンボス加工で表面に浮き彫りされた数字の凹凸を頼りに挿入方向を識別することができるが、ICカードではエンボス加工の文字・数字は機能構造上なくなる方向なので、もう手触りで判断できなくなる。『セルフマークエリア』はカード班が以前から提唱している独自の識別方法で、カ

ードの表面に自分で点字や記号などのマークを付けることができるスペースを設け、他のカードとの識別や挿入方向を手触りでわかるようにする方法だ」

技術的には難しいことなのか。

「ICカードは磁気ストライプとの併用期もあるので、『セルフマークエリア』の設定は決して簡単ではない。とりわけカードのどこの部分を空けるかなど、本格普及する前に関係者間でルールを決めておかないと実現はいつそう難しくなる」

最初から、ユニバーサルに使い勝手の良いものを作り、ルールを整備する必要があるわけだ。

「ATMはまさに今、分岐点を迎えている。急速に普及し始めている現時点で共用品化を図らないと、後々になってバリアフリー化しようとしてもコストも手間も莫大になってしまう。私たちカード班は異なる形の『切り欠き』によってプリペイドカードを識別する方法を考案し、それをJIS（日本工業規格）に採用してもらうなど実績を上げてきたが、常に『もう普及していることなので……』といった既成事実の壁にぶつかってきている。早く動くことは大変重要だ」

最後に、カードシステム班の今後の取り組みは。

「カードの『セルフマークエリア』については、JISや全銀協などに続いて、先月、国際標準化機構（ISO）にも国際的な統一規格の実現をめざして提案を行った。これからも一步一步、着実に活動を広げていきたいと考えている」

液晶タッチパネル用のガイドボード

サン工芸が試作開発

点字案内板メーカーのサン工芸（本社京都府久世郡久御山町、法人賛助会員）は、既設のATMの液晶タッチパネル画面に装着する視覚障害者用ガイド標示板（=写真）を試作した。

厚さ8mmの亚克力樹脂製の透明なボードで、使い方はタッチパネルの液晶画面の上に置くだけ。例えばテンキーや「入金」、「確定」などタッチパネルの画面上の各種キーに合わせて穴が開けられ、さらにそれぞれの穴のすぐ近くには点字も付けられている。同社の杉山悦雄社

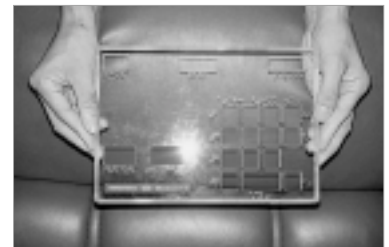
長は「これを使えば、少なくとも基本画面は視覚障害者でも自分でキー操作できる」と語る。

ちょっとした

アイデア商品ではあるが、銀行や郵便局などが、バリアフリー仕様の新型機種に切り替えるまでの暫定的な対策用として活用することは十分可能だろう。

（高嶋健夫）

問い合わせ先：㈱サン工芸（TEL：0774-23-1133）



『共用品白書2000』を刊行

ISO/JISのガイド原案など情報を満載

共用品推進機構は『共用品白書2000』を刊行した。「共用品・共用サービスのことがすべてわかる総合テキスト兼ガイドブック」をめざして昨秋発行した『共用品白書99』をベースに新規項目を多数加えるなど、内容を大幅に加筆修正した。副題は『新たなる「バリアフリー世紀」の序章として』。

昨年から今年にかけてのバリアフリー、共用品・共用サービス、ユニバーサルデザインを取り巻く国内外の産業界、政府、自治体などの動きを詳細に記録、収録しているほか、ISO/JISの新しい規格原案もいち早く収録している。

A4判・ヨコ組み、216ページで、価格は1部2000円(税込み、送料別) 購入ご希望の方は、氏名 住所 電話番号 ファクス番号 購入部数 を記入のうえ、共用品推進機構事務局までファクス(FAX: 03-5280-2373)にてお申し込みください。

『共用品白書2000』目次

- ・ 共用品開発の歴史
 1. 共用品・共用サービスをめぐる1999～2000年の動き
 2. 日本における共用品・共用サービス開発の歴史
- ・ 共用品・共用サービスの定義
 1. バリアフリー社会を創出する「共用品・共用サービス」
 2. 「共用品・共用サービス」が求められる背景
 3. 「共用品・共用サービス」と「ユニバーサル・デザイン」
- ・ 共用品の市場規模
 1. 市場規模把握のための共用品概念について
 2. 市場規模推計の対象とした「共用品」
 3. 共用品の市場規模推計結果
- ・ 障害者・高齢者の不便さについて
- ・ 共用品における業界団体の取り組み
- ・ 共用品と標準化(ISO/JISの取り組み)
 - 参考資料 -1. 障害者・高齢者に配慮した製品等の国内での規格・基準・指針等
 - 参考資料 -2. 高齢者・障害者配慮設計指針 消費生活製品の凸記号表示
 - 参考資料 -3. 高齢者・障害者配慮設計指針 包装・容器
 - 参考資料 -4. 高齢者・障害者配慮設計指針 消費生活製品の操作性
 - 参考資料 -5. 規格策定における、高齢者や障害者のニーズへの配慮政策宣言(案)
 - 参考資料 -6. ISO/IECガイド71(案)
- ・ 共用品の政策とのかかわり
- ・ 共用品推進機構の概要と活動実績
- ・ 東京会議1999年度活動報告

■次号(2001年1月15日発行予定)のご案内

**特集は「21世紀の夢の共用品」
Eメール&FAXアンケートにご参加を!**

新世紀最初の次号では、新春恒例・お約束の「夢の共用品&理想のバリアフリー社会」を展望します。

アンドロイド型の家事ロボット、頭の中で考えたことをすぐ文章にまとめてくれるワープロ、携帯型自動翻訳機、盲人でも運転できる空陸両用車……21世紀中に実現する「究極の共用品」は果たして? そこで、読者の皆様にも夢やご意見をうかがおうと、電子メール・ファクスでアンケートを実施します。回答の宛先は共用品推進機構事務局(メールアドレス:jimukyoku@kyoyohin.org FAX:03-5280-2372)まで、切は12月15日です。振るってご参加下さい。

21世紀の夢の共用品・アンケート調査

以下の質問に、手短かにお答え下さい。

- Q1:あなたが是非、実現してほしいと考える「夢の共用品・共用サービス」は?
 商品名 ()
 それはどんな物?()
- Q2:あなたが考える「21世紀の理想のバリアフリー社会」とは、どんな社会でしょうか?
 ()
- Q3:今すでにある共用品・共用サービスの中で、あなたが特にお気に入りの製品は何ですか?
 商品名 ()
 その理由 ()
 f1:差し支えない場合はお名前()
 f2:男性・女性(どちらかに)を)
 f3:年齢()歳
 f4:職業・勤務先など()

店と障害者が作る「町の日常」
新所沢東口商店街を再訪して

……先日、埼玉県新所沢東口商店街会長、和田和衛さんを久ぶりに訪ねた。駅前のお蕎麦屋「やぶ重」のご主人。『バリアフリーの店と接客』（日本経済新聞社）の取材でお世話になり、3年ぶりの再会だ。

この商店街ができたのは30年ほど前。その数年後に、近くに中途障害者のための国立リハビリテーションセンターができることになった。障害者と接したことの無い大半の店の人たちは、大きな不安を抱いた。

「白い杖をついた人が店の前の放置自転車にぶつかりそうになったんで、飛び出していったら、後にリハビリの指導をしている人がついていて、『訓練中なので、手を貸さないでほしい』。それが、障害者との出会いです」と和田さん。

一見、ほかの商店街と大きな違いはない。ただ、それぞれの店が試行錯誤しつつ可能な範囲で、車いすを

使用する人が店内に入れるように段差をなくし、メニューには写真や点字を入れるなどの工夫を行ってきた。

……ご夫婦でやっている肉屋さんは改装する時に両開きの自動扉を導入、柵もなるべく低めに設定した。聞こえない人が来ると筆談でやりとりし、見えない人には、本日の目玉商品を言葉で説明する。「それが毎日ですよ」と楽しそう。

商品が多く、車いすが通れるスペースが取れない薬屋さんは、車いすの人が来ると店の前で欲しい物を聞き、中から商品を持ってくる。希望と合うまでその行為を繰り返す。「それも日常業務の一部」という。

床屋さんは「お客さんを待たせないように」との発想で予約制に。改築の時、階段をスロープにしたくて見積もりを頼んだら、300万円かかるとわかり断念。それでも、車いすの人が見えると、外に出て行って簡易スロープを設置。場合によっては、後ろから押す。それが「日常」だ。

和田さんの「やぶ重」というと、入り口に一番近い席のいすを取り外し、車いすの人がそのままテーブルに近づけるようになっていて、家族・仲間と同席できる。ほかに、この商店街が考え出した「障害があってもなくても一緒に暮らすためのアイデア」の数は数え切れない。

……和田さんは3年前と同じことを繰り返した。「大したこと、何もしてないですよ。マニュアル？ そんなものありません。障害のある人たちと一緒にこの町を作ってきた。それだけ。ただ、それだけです」

夜、車いすで飲み歩き、酔っ払い、路上で転び、それでも事故になることもなく、誰ともなく、いつの間にか近づいてきた町の人が、その人を車いすに戻す。そんなことさえ当たり前前の日常が、さりげなく繰り返されているこの町の息づかいを、どうしたら隣の町へ、またその隣へと運べるだろうか。帰りの電車の中で、ずっと考え続けた。 ()

(財) 共用品推進機構 会員状況(10月末現在)

▶ 個人賛助会員 214名

▶ 法人賛助会員 72社

< 法人賛助会員一覧 = 五十音順 >

- | | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. アイホン㈱ | 16. 花王㈱ | 36. ソニー㈱ | 54. 日本興業㈱ |
| 2. ㈱アサツディ・ケイ | 17. ㈱鴨志田デザイン事務所 | 37. 大日本紙業㈱ | 55. 日本航空㈱ |
| 3. アサヒビール㈱ | 18. 川崎工業㈱ | 38. 大日本印刷㈱ | 56. 日本生活協同組合連合会 |
| 4. ㈱イトーキ | 19. キヤノン㈱ | 39. DAINICHI.COLOR(THAILAND) LTD. | 57. ㈱日本能率協会総合研究所 |
| 5. ㈱INAX | 20. ㈱講談社 | 40. ㈱高島屋 | 58. ㈱日本能率協会マネジメントセンター |
| 6. 入交産業㈱ | 21. ㈱コスモスライフ | 41. 蝶理㈱ | 59. 日本ビクター㈱ |
| 7. ㈱ウエルネット | 22. コンビ㈱ | 42. ㈱ソクダ | 60. 日本福祉大学 |
| 8. ㈱内田洋行 | 23. ㈱サン工藝 | 43. ㈱電通 | 61. ㈱白寿生科学研究所 |
| 9. エー・アンド・エムスチレン㈱ | 24. サントリー㈱ | 44. ㈱トイボックス | 62. ㈱日立製作所 |
| 10. ㈱エポック社 | 25. ㈱シースターコーポレーション | 45. 東京ガス㈱ | 63. ㈱ヒューマンルネッサンス研究所 |
| 11. 大阪ガス㈱ | 26. ㈱GKデザイン機構 | 46. 堂本食品㈱ | 64. ㈱ファンケル |
| 12. 沖電気工業㈱ | 27. 静岡果 | 47. ㈱図書館流通センター | 65. フクビ化学工業㈱ |
| 13. オムロン㈱ | 28. ㈱資生堂 | 48. ㈱トミー | 66. ㈱藤子・F・不二雄プロ |
| 14. ㈱オリエンタルランド | 29. ㈱小学館 | 49. ㈱虎屋 | 67. 本田技研工業㈱ |
| 15. オリパス光学工業㈱ | 30. ㈱小学館プロダクション | 50. ㈱ナナ・コーポレート・コミュニケーション | 68. 松下電器産業㈱ |
| | 31. ㈱住友海上リスク総合研究所 | 51. ㈱ニッセイ基礎研究所 | 69. 松下電工㈱ |
| | 32. セイコーエプソン㈱ | 52. 日本コロムビア㈱ | 70. ㈱メルコム |
| | 33. 積水化学工業㈱ | 53. (社)日本玩具協会 | 71. ヤマハ㈱ |
| | 34. 積水樹脂㈱ | | 72. ㈱リクルートエイブリック |
| | 35. ㈱積信堂 | | |

「交通のバリアフリー」

ことう よしかず
後藤 芳一 (個人賛助会員、日本福祉大学兼任講師)

移動の自由をもつことは、「人権」の大きな要素である。移動の「バリア」への対応は、「社会的不利(ハンディキャップ)」を除くことを通じて、「社会参加」の基本的な条件を整えるという意義がある。(小さい添え字 は、同様の用語が「インクル」第1～8号の本欄に既出であることを示す)。

1. 法令や政策

今月「交通バリアフリー法」が施行された。公共交通機関の利用の利便性・安全性の向上をめざし、旅客施設、車両、周辺の道路、駅前広場などの「バリアフリー化」を進める。1994年施行の「ハートビル法」と合わせて「移動環境」の「連続性」の向上が期待される。

指針レベルでは「交通ターミナル身体障害者施設整備ガイドライン」(83年)、「公共交通の車両構造モデルデザイン」(90年)、「鉄道駅におけるエスカレーター整備指針」(91年)、「鉄道駅におけるエレベーターの整備指針」(93年)、「交通ターミナル高齢者・障害者施設整備ガイドライン」(94年)、「みんなが使いやすい空港旅客施設整備指針」(94年)がある。

2. 利用者自身による移動手段

利用者自身が操作する機器などを通じて、より高いレベルで「自立」や「自己決定」が実現できる。

「福祉用具」のうちの「移動機器」として、「杖」、「シルバーカー」、「電動3/4輪車」、「歩行器」、「車いす」、「福祉車両(助手席回転シート、運転補助装置付、スロープ付)」がある。「車いすのまま運転する福祉車両」の実用化も期待される。

一時的な移動機器を貸与する「タウンモビリティ」は、英国の「ショップモビリティ」がわが国に紹介されたもので、各地の商店街などに取り組みが広がっている。

3. 移動サービスの提供(その1:仕様の工夫)

移動手段をサービスとして提供するために、機材の仕様や用途を工夫したものがある。

自動車では「福祉車両(リフト付)」、「タクシー(リフト付、寝台)」、「バス(低床、広ドア、ノンステップ、リフト、スロープ付)」がある。

鉄道では、車両の構造レベルで対応する「低床型路面電車(LRT)」や、「優先席」、「車いす用スペース」、「文字表示」などの装備レベルの対応がある。

航空機や船舶でも、「車いす対応の昇降装置」や「同トイレ」などの設置が進んでいる。

4. 移動サービスの提供(その2:サービス)

幅広い利用者に移動の機会を提供すること自体を目的とするサービスがある。

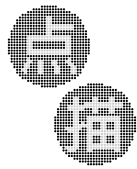
自動車分野を中心に広がっており、「民間救急サービス」、「福祉移送サービス」、「介護タクシー」、「ハンディキャブ/チェアキャブ」、「ユニバーサルタクシー」、「市街地巡回バス」などがある。高齢者・障害者専用サービスを「STS(= Special Transport System)」と呼ぶ。

5. 施設

交通機関の利用を円滑にするため、旅客施設など周辺の環境の整備も重要である。

鉄道の駅を中心に各種の工夫が進んでいる。利用する順に、「案内標識」、「誘導(チャイム、赤外線)」、「自動券売機(車いす、視覚障害者対応)」、「識別できるプリペイドカード」、「改札口の拡幅」、「身体障害者用トイレ」、「エレベーター/エスカレーター」、「階段昇降機」、「段差解消機」、「誘導・警告ブロック」、「ホーム自動ドア」のほか、「ホームから車両への段差解消機」も登場している。

他に駅前広場、通路、駐車場や、軌道停留場、バス・客船・航空ターミナルの整備も始まった。



インクルの^{ほほえ}微笑み

文具売り場で見つけた「手作り点字カード」

ある昼下がりの午後、私は親友で絵本作家のNさんと、T百貨店の落ち着いた雰囲気のお茶店でお茶を飲んでいました。話題はNさんが最近刊行した絵本について。どんな絵が人を惹きつけるのか、触って分かる絵にするには、どんな絵を描けばよいか……。もっぱら、そんなことが話の中心だった。

「話しているだけじゃ始まらない。ねえ、ここのデパートで何かアイデアを見つけない？」。会話は次第にヒートアップ。飲みかけのお茶を一気に飲み干し、勇んで売り場に直行することに。

文具売り場のグリーティングカードやメッセージカードに描かれている絵は、とても魅力的である。この季節になると、色とりどりのクリスマスカードや年賀状が並べられ、いっそう華やかになる。

ふたりで売り場の隅から隅まで探索し始めた。突然、Nさんが「ねえ、これ見て！」と嬉しそうに1枚のカードを持ってきた。しっかり見やすい太い文字と、ピンクの点字で「おめでとうございます」と書かれている。

ほかに同じようなものはないか探したが、どうやらこれ1種類しかないようだ。しかし、「おめでとうございます」だけなんて考えられない。まだあるはずだ。あるとしたら、何があるのかしら……。またしても、「共用品探検隊」の魂に火がついた。

早速このメッセージカードを購入し、T百貨店に勤務している友人に事情を説明。カードに記載してある「Gallery Interform (ギャラリーインターフォーム)」という社名だけを頼りに探しあててもらい、早々に連絡を取った。少々強引な突撃レポート風ではあったが、同社の東京営業所長の森本敏浩もりもととしひろさんは快く対応してくださった。

点字付きカードを始めたきっかけは「浮き彫りができる印刷技術の存在を知り、これを使えば商品化できるかも」と考えたからという。カレンダーやダイアリー、カードなどの自社製品を「より多くのお客様に喜んで使っていただきたい」という願いもあった。点字の読めない人にもわかるように、付属の点字シールには墨字も併記してある。

文字が多くなる時のために、シールだけ別売りしている。

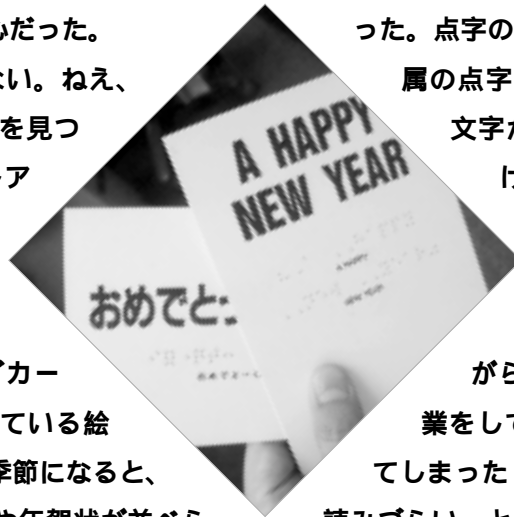
森本さんによると、これらのカードはすべて手作りで、1枚1枚点字の付着状態を確認しながら梱包・出荷している。丁寧に作業をしているが、それでも「点字が取れてしまった」とか「貼り付けたメッセージが読みづらい」といった声もあり、頭を悩ますこともあるそうだ。

このほかに、「バリアフリー多言語カード」というものもある。1つのメッセージが、15カ国語プラスそれぞれの言葉に対応した点字で記されている。メッセージには「お誕生日おめでとう」や「ありがとう」など10種類以上がある。世界中の人たちからメッセージが寄せられているようで嬉しくなる。

「1人でも多くのお客様がお互いの気持ちを伝え合うのに、これらのカードが少しでもお役に立てば」という森本さんの言葉が、心に響いた。

いろいろな人がいろいろな形でコミュニケーションをとり、伝えたいことを伝え合うために考えられた製品。目に見えるデザイン、手に触れる機能だけでなく、その中に息づく作り手の気持ち、目に見えない温もりを大切にされた製品。共用品発掘に新たな視点がまた1つ加わった。

(取材・文/森川 ^{もりがわ} 美和)



『インクル』バックナンバーのご案内

ご購入希望の方は、事務局までお申し込みください。



創刊号 1999年7月



第2号 1999年9月



第3号 1999年11月



第4号 2000年1月



第5号 2000年3月



第6号 2000年5月



第7号 2000年7月



第8号 2000年9月

『インクル』は共用品推進機構の機関誌です！

共用品情報誌『インクル』は隔月刊で発行し、個人・法人賛助会員の皆様に郵送でお届けしています。共用品推進機構では引き続き、個人・法人賛助会員を募集しています。年会費は、個人が1人1万2000円、法人が1口20万円。入会申し込み・お問い合わせは、下記の事務局までお願いいたします。

『インクル』は共用品の専門情報誌です！

新製品・サービスの発売、新技術の開発、展示会やイベントの開催、常設展示場の開設—共用品・共用サービスに関するニュースの提供をお待ちしています。リリース、資料などは事務局『インクル』編集部まで。また、広告の出稿もお待ちしています。『インクル』の読者は共用品・共用サービスの普及を担うオピニオン・リーダーです。出広媒体としても積極的にご活用ください。広告料金表は事務局にご用意していますので、お問い合わせください。

『インクル』は消費者と企業をつなぐ架け橋です！

個人の寄稿・投稿も大歓迎。「バリアフリーサービスの素敵なお店」「心のバリアフリー体験談」「海外ユニバーサルデザイン事情」などなど、個人賛助会員の皆様、法人賛助会員の読者の方々からのご意見を、お手紙、FAX、電子メールで、事務局『インクル』編集部までお寄せください。

作る人と使う人の共用品情報誌

インクル 第9号

2000(平成12)年11月15日発行

"Incl." vol.2 no.9

©The Kyoyo-Hin Foundation, 2000

隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

視覚障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構

郵便番号101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル8F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川 安之

森川 美和

橋本 英和

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 草地美穂子

(五十音順) 小塚 通宏

後藤 芳一

永井 武志

牧内 智子

山本 明彦

制作 日経BPクリエイティブ

印刷・製本 光写真印刷株式会社

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複製することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複製することは著作権者の権利侵害になります。